

巻頭言

「令和2年の暮」

理事長 新谷友良

あと3週間で令和2年が終わります。何があったのか記憶を呼び起こすことが難しい1年でした。それでも、雨で寒かったですが1月には中野ゼロホールで「集い」の開催ができました。大相撲初場所では幕尻の徳勝龍が優勝し、3月場所では朝乃山が、9月場所では正代が大関に昇進しました。

毎日の区別がつかなくなるのは、2月の全難聴の理事会のあとぐらいから。NHKの「新型コロナウイルス特設サイト」を見ると、1月14日に世界保健機関（WHO）が新型コロナウイルスを確認し、1月30日には「国際的な緊急事態」を宣言しています。乗客に感染者が発生したクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」の横浜港入港は2月3日です。

2月からは日記をつけることを止めたので、タイムラインの確認はインターネットが頼りです。協会の活動は対面での集まりが困難になり、メールのやり取りやインターネットでの集まり・会議にシフトしました。月に1度ぐらいはあった飲み会もゼロで、目に見えないストレスがかかっているのか、一日一日を過ごしていく実感が見えなくなりました。

4月から5月末までの緊急事態宣言中は、密になることをできるだけ避けて、人通りの少ないところを歩きました。良く歩いたのは神宮外苑。青山通りから外苑東通りを信濃町まで行き、新宿を横切って自宅まで戻ることもありました。次に歩いたのは、隅田川テラス。両国橋から清洲橋あたりまで行き、川を越えて水天宮で地下鉄に乗ってしまいます。そんな記憶のなかの神宮外苑や隅田川テラスは、樹々の緑や水の碧が満ちていましたが、全部が絵画の背景のようで現実感がしっくりしません。人も行き交っていましたが、ほぼ全員が顔だけではなく体全体をマスクで覆っているようで、記憶が無機質です。聞こえないということが、わずかに残っている現実をそぎ落としてしまいます。

新型コロナウイルス感染の収束は見えませんが、毎日の記憶をいくらかでも残しておこうと、8月ごろから日記を再開しました。時間の移り変わりを文字にすることで、毎日を少しでも確実に生きたいと思っていますが、書けることは数行です。戦後生まれで空襲体験もなく、大きな災害の体験もありません。コロナ禍をどう文章にして良いかわからずに年末になりました。皆さま、ぜひ良い年をお迎えください。